

題材名「みんなの家は八上小学校から見て東西南北どの方角？」

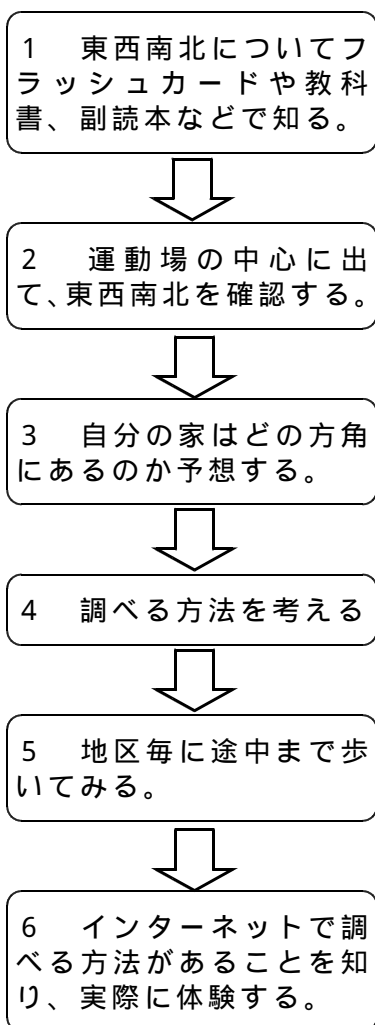
目標

- ・GISと呼ばれるインターネットでの地理探査システムの活用や実際に歩く活動をとおして、方角の概念を理解させる。

コンピュータを活用する利点

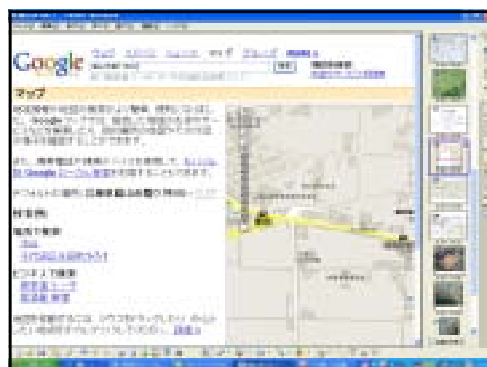
中学年の社会科において、一番重要なのが見学や観察などの実体験である。本単元では方角の概念を児童の頭の中に作っていくことを最大のねらいとしている。実際に西の方に歩くと自分の家につくなどを体験で理解させるが、それだけでは本当にそうなのか、途中で曲がっているのでは正確ではない。そこで歩いた後、本当に合っているのかをグーグルアースなどのGISシステムで方角を示すことにより、より視覚的に巨視的に理解させていく。なおこの活動において児童は体験とともにわからないときは資料を使い、考えの根拠としていくことを学んでいく。

授業の流れ(全3時間)



ICT 活用場面

前時までに児童は実際に自分の家まで途中まで歩き、運動場から見てどの方角が予想している。しかし、これでは途中で曲がり道などがあり、実際に方角を予想するのは困難である。そこで、やり方を考えた際に出た、インターネットを使うことを教室で実際にやってみた。スマートボードという電子黒板を使用し、子どもが使用するサイトなどはあらかじめキャッシュで見ることができるよう一度アクセスしておいた。実際には「ヘリコプターから撮った学校の写真や地図があったらわかる」という意見が出たので、学校の写真をインターネット上から見つけることから活動を始めた。しかし写真だけではわからない。そこで提示しておいたYAHOOのTOP画面から子どもたちは地図を見つけ、アクセスしインターネット上に写真と地図をすぐ入れ替えられるサイトがあることを知る。その後、グーグルマップやグーグルアースを実際に使いながら、その使用方法と方角の確認の授業を行った。



成果と課題

地図と写真が出てくると子どもたちは思わず声をあげた。特にグーグルアースで地球から八上小へ近づくと、驚いた顔をし「すごい」という歓声に近い声も出ていた。方角も鳥瞰的に見ることにより概念が少しできたと考えている。何よりも新しいツールを使って地図検索ができることを知ったこと自体が本時の成果でもあろう。

実際に歩いてみる等の実体験の部分とGISシステムを活用するバーチャル体験の部分のバランスを今後も考えながら取り組んでいきたい。

ICT 活用環境など

使用周辺機器	ノートパソコン、プロジェクター、電子黒板
使用ソフト名	Internet Explorer、スマートノートブック
使用教室	普通教室